

「元気発進！子どもプラン（第2次計画）」の評価方法

1 事業の評価

事業評価は、プラン事業の実績について、事業担当課が、自己評価するもの。

- ① 前年度、点検・評価の【改善】に記載した内容を記載。
- ②-1 活動指標の表の最上段に単年度目標値を記載。
*単年度目標値のないものについては、前年度との比較（前年度比増、前年度比減、前年度比同水準 など）を記載。
- ②-2 活動指標の表の上から2段目に、実績値を記載。
- ②-3 活動指標の表の上から3段目に、単年度目標に対する達成率を記載。
- ②-4 活動指標の表の最下段に、計画目標値に対する達成率を記載。
*目標値が数値化されていないものについては、計画目標に達した状態を100%としたときの該当年度までの達成率を記載。
- ③評価区分は、「**大変順調**」「**順調**」「**やや遅れ**」「**遅れ**」の4段階で評価する。
各評価については、おおむね以下の評価基準とする。

評価区分	評価基準
大変順調	<ul style="list-style-type: none"> ・実績値が前年度に比べ <u>10ポイント以上（相当）上昇した事業</u> ・達成率が <u>100%以上（相当）を推移（上位を推移）している事業</u> ・ほぼ、<u>目標に達している事業</u>
順調	<ul style="list-style-type: none"> ・実績値が前年度に比べ <u>10ポイント未満（相当）上昇した事業</u> ・達成率が <u>90～100%未満（相当）</u>であり、ほぼ現状どおりの状況を推移している事業
やや遅れ	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度から改善はしているが、達成率が <u>70～90%未満（相当）</u>である事業
遅れ	<ul style="list-style-type: none"> ・達成率が <u>69%以下（相当）</u>であり、前年度から改善が見受けられない事業

留意点

- 事業は計画中で未実施であるが、実施に向けて調整等を進めている場合は、達成率に関わらず、年度で実施すべき内容での達成状況を加味して、判断すること。
- 年度での評価区分が「やや遅れ」「遅れ」であっても、当該事務事業の性質上、適正であると判断できる場合は、その理由を「評価の理由」欄に詳しく記入すること。**
- 定性的に判断する場合は、評価区分の判断となる要素について、わかりやすく④「評価の理由」に記入すること。
- 特別な理由等により、評価基準（数値）は満たさないが、実際の状況は良い場合等は、その要因等をわかりやすく④「評価の理由」に記入すること。

④評価結果の理由を簡単に記載

⑤事業実施や評価を踏まえた課題を簡潔に記載。改善内容やその他必要な事項を簡条書きで記載。

2 施策の評価

施策評価は、該当施策全体の活動指標の評価【自己評価】と、アンケート結果等による成果指標【客観的評価】を基に、プランを総合的に評価するもの。

⑥-1 成果指標の表の上段に前年度実績値を記載。

*ただし、平成 27 年度は、前年度実績値の代わりに、現状値（H25 年度ニーズ調査数値）を記載。

⑥-2 成果指標の表の中段に、実績値を記載。

⑥-3 活動指標の表の下段に、前年度比率を記載。

⑦評価区分は、「A」「B」「C」「D」の4段階で評価する。

評価は、該当施策全体の活動指標の評価【自己評価】の状況に、アンケート結果を基にした成果指標【客観的評価】を加味した総合評価とする。各評価については、おおむね以下の評価基準とする。

≪活動指標の総合評価≫

評価区分			客観的評価			
			前年度に比べ 上位・概ね目 標に達してい る	前年度に比べ 上位・現状維持	前年度に比べ 下位・現状維持	前年度に比べ 下位
			1	2	3	4
自己 評価	1	95%～	A	B	C	D
	2	70～95%	B	B	C	D
	3	40～70%	C	C	C	D
	4	～40%	D	D	D	D

※評価区分の【自己評価】は、施策の事業数のうち、事業評価が「大変順調」「順調」の合計数の割合。

A：大変良い状況にある。

B：概ね良い状況にある。

C：概ね良い状況とまでは言えない。

D：不十分な状況にある。

⑧評価結果の理由を箇条書きで簡単に記載。

【予算・決算】

予算・決算は、該当事業の予算額・決算額を記入するもの。

⑨当該年度の決算額および次年度予算額を記載。複数事業で予算事務事業を構成している場合は、総額を記入し、「の一部」と追記。